



新年を迎え今年はどんな年になるのか思いを募らせている事と思います。明けても、いまだに終息していない新型コロナウイルス感染症(コロナ)は、とても多くの方々を不安に陥れ生活様式も変わってきました。予防に務めながら病児保育では、感染予防を徹底し普段通りお熱や下痢の症状のお子さんと出来れば楽しくと思いつつ過ごしています。

ただいま急性胃腸炎が流行中

胃腸炎には非感染性腸炎と“感染性腸炎”があります。前者は、食べ過ぎ”・“飲みすぎ”おなかの冷えすぎ”等が原因と考えられます。

後者は、傷んだ状態や不十分な調理・保存状態の食べ物の摂取による病原（細菌、ウイルス）の経口感染ですが、もう一つ、通称“お腹にくる風邪”と言われている感冒性腸炎です。風邪の場合はほとんどがウイルス感染で、多くの場合、気道感染による鼻水（鼻腔）、のど痛（咽喉頭）、咳（気管支）を考えがちですが、経口、接触、飛沫感染によって胃・腸に炎症を引き起こし、下痢、腹痛、嘔吐といった症状を引き起こすウイルス感染もありますので注意してください。



それでは治療は？

経口補水液などによる経口で水分補給、時に点滴などを行い、自然治癒を待ちます。基本的に食事は摂らず、回復の具合を見ながらお粥やうどんから食事を再開します。発熱や腹痛に対する解熱鎮痛剤、細菌性腸炎に対する抗菌薬を使用することもあります。下痢止めは、細菌・ウイルスの排出の妨げになるため、最低限の使用とします。まずは医師の指示を受けましょう。



予防としては？

うがい・手洗い・ドアノブなどの消毒・包丁・まな板の消毒・嘔吐物や糞便の付着部を塩素系漂白剤で水吹きや漬け消毒をする。又、ウイルスが飛び散らないように袋に入れ密封する等、後始末をしっかりする。など日頃から意識し感染を受ける事の無いよう気をつけましょう。



冬の醍醐味といえば雪。子どもが肌で冷たさや柔らかさを感じ、冬にだけ自然に起きる不思議を体験しましょう。



～ 雪遊びの注意点 ～

・雪を食べない

雪の中には大気中の塵が入っています。また、道路の雪には凍結防止剤が付着している可能性もあります。乳児さんは誤飲に気をつけましょう。

・転倒



雪の上は大変滑りやすくなっています。特に凍っている部分は大人でも足をとられてしまいます。危険な箇所がないか事前に点検をしましょう。

・落下物



屋根の上に積もった雪やつららが落下してくる可能性があります。取り除くなど、危ない場所には入らないように誘導しましょう。

・脱水症状

厚着をして遊んでいると大量に汗をかきます。着替えを準備し、遊びの前後には、白湯や温かい麦茶などを飲むなど、こまめに水分を取るようにしましょう。



病児室の様子

いつもは静まり返っている病児室、利用の日は担当職員以外でも覗き込み応援「どうしたの？」に恥ずかしそうに咳をして見せるお友達や人見知りをするお友達、慣れたお友達は金魚の部屋を開け事務員がいる事を確かめ応援のおやつタイム、廊下で声が聞こえれば戸を開け状況確認と・・・体調が悪いながらも事務室内探検に興味広がっています。コロナ感染が市内でも見られていますが、環境衛生や人の移動、消毒と毎日行い安心してご利用いただけるように整えています。